

**CASBEE京都-新築(2011年版)**  
**飛騨運輸(株)京都支店**

■使用評価マニュアル/CASBEE京都-新築(2011年)

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE京都-新築2011(v.1.)

スコアシート		実施設計段階		重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
配慮項目		評価点	重み係数				評価点	重み係数					
<b>Q 建築物の環境品質</b>											<b>2.4</b>		
<b>Q1 室内環境</b>								<b>0.32</b>				<b>2.6</b>	
<b>1 音環境</b>												<b>2.7</b>	
<b>1.1 騒音</b>								<b>2.7</b>	0.15				
1.1.1 騒音							<b>3.0</b>	0.40					
1 室内騒音レベル							<b>3.0</b>	1.00					
<b>1.2 遮音</b>													
1.2.1 開口部遮音性能							<b>3.4</b>	0.40					
1 開口部遮音性能							<b>5.0</b>	0.60					
2 界壁遮音性能							<b>1.0</b>	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)													
4 界床遮音性能(重量衝撃源)													
<b>1.3 吸音</b>							<b>1.0</b>	0.20					
<b>2 温熱環境</b>							<b>2.3</b>	0.35					<b>2.3</b>
<b>2.1 室温制御</b>							<b>2.5</b>	0.50					
2.1.1 室温							<b>3.0</b>	0.38					
3 外皮性能							<b>1.0</b>	0.25					
4 ゾーン別制御性							<b>3.0</b>	0.38					
<b>2.2 湿度制御</b>							<b>1.0</b>	0.20					
<b>2.3 空調方式</b>							<b>3.0</b>	0.30					
<b>3 光・視環境</b>							<b>2.6</b>	0.25					<b>2.6</b>
<b>3.1 昼光利用</b>							<b>2.4</b>	0.30					
3.1.1 昼光率							<b>2.0</b>	0.60					
2 方位別開口													
3 昼光利用設備							<b>3.0</b>	0.40					
<b>3.2 グレア対策</b>							<b>3.0</b>	0.30					
2 昼光制御							<b>3.0</b>	1.00					
<b>3.3 照度</b>							<b>2.0</b>	0.15					
<b>3.4 照明制御</b>							<b>3.0</b>	0.25					
<b>4 空気質環境</b>							<b>2.8</b>	0.25					<b>2.8</b>
<b>4.1 発生源対策</b>							<b>3.0</b>	0.50					
1 化学汚染物質							<b>3.0</b>	1.00					
<b>4.2 換気</b>							<b>2.3</b>	0.30					
1 換気量							<b>3.0</b>	0.33					
2 自然換気性能							<b>3.0</b>	0.33					
3 取り入れ外気への配慮							<b>1.0</b>	0.33					
<b>4.3 運用管理</b>							<b>3.0</b>	0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視													
2 喫煙の制御							<b>3.0</b>	1.00					
<b>Q2 サービス性能</b>								<b>0.30</b>					<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>							<b>2.3</b>	0.40					<b>2.3</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>							<b>3.0</b>	0.40					
1 広さ・収納性							<b>4.0</b>	0.33					
2 高度情報通信設備対応							<b>1.0</b>	0.33					
3 バリアフリー計画							<b>1.0</b>	0.33					
<b>1.2 心理性・快適性</b>							<b>2.6</b>	0.30					
1 広さ感・景観							<b>4.0</b>	0.33					
2 リフレッシュスペース							<b>3.0</b>	0.33					
3 内装計画							<b>1.0</b>	0.33					
<b>1.3 維持管理</b>							<b>2.5</b>	0.30					
1 維持管理に配慮した設計							<b>3.0</b>	0.50					
2 維持管理用機能の確保							<b>2.0</b>	0.50					
<b>2 耐用性・信頼性</b>							<b>2.6</b>	0.31					<b>2.6</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>							<b>3.0</b>	0.48					
1 耐震性							<b>3.0</b>	0.80					
2 免震・制振性能							<b>3.0</b>	0.20					
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>							<b>2.5</b>	0.33					
1 躯体材料の耐用年数							<b>3.0</b>	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔							<b>2.0</b>	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔							<b>3.0</b>	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔							<b>2.0</b>	0.23					

2.4 信頼性					1.8	0.19			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20			
3	電気設備				1.0	0.20			
4	機械・配管支持方法				1.0	0.20			
5	通信・情報設備				1.0	0.20			
3 対応性・更新性					4.1	0.29			4.1
3.1 空間のゆとり					4.6	0.31			
1	階高のゆとり				5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	階高=3.93m 壁長さ比率=0.29 4500N/m <sup>2</sup> 以上	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり					5.0	0.31			
3.3 設備の更新性					3.0	0.38			
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.22			
6	バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.38			1.9
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40			3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					1.5	0.30			1.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●とも、 自然	A'(全国版準用)		2.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上	●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-			3.2
LR1 エネルギー					-	0.40			3.7
1 建物の熱負荷抑制					3.0	0.07			3.0
2 自然エネルギー利用					4.0	0.26			4.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.50			
2.2	自然エネルギーの変換利用	●自然	A(全国版準用)	太陽光発電計画	5.0	0.50			
3 設備システムの高効率化					4.3	0.40			4.3
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				ERR=22.5%	4.3				
集合住宅の評価					3.0	0.26			3.0
4 効率的運用					3.0	0.50			
4.1	モニタリング				3.0	0.50			
4.2	運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル					-	0.30			3.0
1 水資源保護					2.2	0.15			2.2
1.1 節水					1.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.67			
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減					3.2	0.63			3.2
2.1	材料使用量の削減	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.07			
2.2	既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)		3.0	0.20			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	●自然	B(推奨内容) D(独自基準)	地域産木材使用	5.0	0.05			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げ材が容易に分別できる	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.22			3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.68			
1	消火剤				-	-			
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50			
3	冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境					-	0.30			2.8
1 地球温暖化への配慮					3.5	0.33			3.5
2 地域環境への配慮					2.0	0.33			2.0
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		1.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減				-	-			
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3	交通負荷抑制				3.0	0.33			
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.33			
3 周辺環境への配慮					3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40			
1	騒音				3.0	1.00			
2	振動				-	-			
3	悪臭				-	-			
3.2 風害、日照阻害の抑制					3.0	0.40			
1	風害の抑制				3.0	0.70			
2	砂塵の抑制				3.0	-			
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制					3.0	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				3.0	0.70			
2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●大切	B(推奨内容)		3.0	0.30			

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う「とも」:ともに使う「自然」:自然からつくる